

GUIDE BOOK 2027

[博士前期・後期]

[修士課程]

26070400



文学研究科

国文学専攻

中国学専攻

歴史文化学専攻

二松学舎大学大学院文学研究科は、これまで数多くの優秀な人材を学界に、教育界に輩出してきました。そのよき伝統を継承し、学問の世界だけではなく、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を図るため、意欲的な社会人、留学生のためにも広く門戸を開放しています。幅広い学問分野を網羅した充実のカリキュラム、貴重な文献を所蔵する図書館をはじめとした研究環境、優秀な教授陣による密度の濃い研究指導は、二松学舎149年の伝統によって支えられています。こうした教育・研究体制の下、二松学舎大学大学院は必ずや日本の大学院の最高峰を究めるものと自負しています。

国文学専攻

国文学専攻主任
妹尾 好信 教授

国文学専攻を
めざす人へ



大学生として日本文学や日本語、日本文化、映像・演劇等を学ぶ中で、研究することの厳しさと楽しさに気づき、関心のあるテーマについてさらに深く考えてみたくなった人、自分のめざす国語教育のためにもっと学問的な研鑽を積み重ねたいと思っている人、あるいは、これまで異なる分野を学んできた結果、その知見を生かしながら日本の文学や言語、文化等を捉え直したくなった人、進学の動機はさまざまでも、国文学専攻で学問に真摯に取り組もうとする皆さんを、私たちは待っています。

中国学専攻

中国学専攻主任
伊藤 晋太郎 教授

中国学専攻の
2種類の学位



中国学専攻は博士前期課程と博士後期課程のそれぞれに2種類の学位を用意しているのが特徴です。中国の文学・思想・言語・芸術等を対象とする伝統的な中国古典学を修めれば修士(文学)または博士(文学)を、日本で受容された中国学を日本人が発展させた日本漢学を修めれば修士(日本漢学)または博士(日本漢学)を取得できます。特に、日本漢学の学位はこの分野での世界的研究拠点を目指す本学ならではのものです。

歴史文化学専攻

歴史文化学専攻主任
野村 啓介 教授

賢者は
歴史を学ぶ



「賢者は歴史を学ぶ」といいます。グローバル化が進展して異文化理解の必要性が高まれば高まるほど、また実学尊重の風潮がどれほど強くなるうとも、人間社会の来し方行く末を探究する歴史研究がその存在意義を失うことはありません。こうした信念のもと、本専攻では歴史文化への学びをさらに深めるため、日本歴史文化学講座・東アジア歴史文化学講座・西洋歴史文化学講座・総合文化学講座からなる4講座が設置されます。充実の体制により、みなさんの研究を全力で後押しします。

研究科長からのメッセージ

理想的な
研究環境の中で、
研究者、人間としての
成長を。

大学院 文学研究科長
山口 直孝 教授



漢学塾として出発した二松学舎は、漢学に根ざした豊かな学問的な伝統を持っています。漢学は、蓄積された知を踏まえて現実をとらえ、広い視野で問題解決を図る合理的な思考です。総合的な人間学であるその精神は、「東洋学」として建学の精神として掲げられ、現在に受け継がれています。

本文学研究科は、国文学専攻、中国学専攻、歴史文化学専攻の三専攻で構成されており、いずれも日本有数の講座数と指導教員数とを誇ります。国文学専攻においては、古代から現在に至る文学および日本語について、中国学専攻においては、古代から現在に至る中国の思想、文学、言語について、歴史文化学専攻においては、日本、東アジア、西洋の歴史文化について、研究することができます。比較文学、メディア論、芸能文化、国語教育も含んだ講座が開かれており、多角的な知を身につけることができます。

博士前期(修士)課程では修士論文の制作を通じて、独自性のある研究成果を出すことに取り組みます。また、所定の単位を修めることで中学校、高等学校の専修免許状(専攻により国語、書道、中国語、社会、地理歴史)を取得することができます。博士後期課程では、博士論文の完成を目指して、より高度な研究成果を世に問うていくことになります。

近年では、海外の大学院との提携も積極的に進めています。国際色豊かであり、立地も含めて理想的な研究環境を備えた本大学院で自己を磨き、研究者として、また一個の人間として成長してもらえればと思います。

二松学舎大学大学院給付奨学金について

二松学舎大学大学院では、学業成績・人物ともに優秀な学生に対し、高度な研究に専心できる環境づくりの支援を行うことを目的とし、2024年度より奨学金制度を導入しました。

【博士前期(修士)課程】

1年次の春学期の成績を基に優秀な成績を収めた者、最大2名(各専攻)については、当該年度の授業料半額相当額が免除されます。毎年度末の資格継続審査で条件を満たすことで、次年度も減免措置が継続され、最大2年間減免措置が適用されます。

【博士後期課程】

奨学生選抜入試における合格者のうち成績優秀にして入学する者、最大2名(各専攻)を奨学金合格者として、合格発表時に通知します。奨学金合格者になると、年間授業料の納入が免除されます。さらに、毎年度末の資格継続審査で条件を満たすことで次年度も免除措置が継続され、最大3年間免除措置が適用されます。

(注)奨学生選抜入試では、奨学金合格者のほか、通常合格枠もあります。

◎奨学金合格者の初年度学費等納入金(博士後期課程)

	他大学大学院 前期(修士)課程修了者	本学大学院 前期(修士)課程修了者
入学金	250,000円	本学大学院 前期課程修了者は無料
授業料	奨学金合格者は 授業料全額免除	奨学金合格者は 授業料全額免除
施設費	70,000円	30,000円
代理徴収金	14,620円	9,620円
合計	334,620円	39,620円

奨学金合格者の声

小野寺 健さん 中国学専攻(博士後期課程)

現在私は、二松学舎大学大学院の博士課程で、儒教における礼と音楽に関する思想である礼楽思想について、主に唐代以前を範囲として研究しております。学部、修士の6年間を二松学舎で過ごした中で気づいたことがあります。それは文学、それも私が専攻している中国古典学(漢学)を学ぶ上で、二松学舎大学の大学院ほど良い環境は、国内では決して多くはないということです。

アクセスの良さは勿論のこと、何よりも指導を行う教員の専門分野の幅広さと専門性の高さが両

立しており、また学生と教員とのコミュニケーションが密接であるため、常に自らの研究に対して指導と助言を仰ぐことが可能です。この環境の他に、近年設けられた奨学生制度もまた大学院での研究を志す者にとって、魅力的なものです。その試験は外国語と専門科目に分かれ、特に後者は決して簡単なものではないですが、大学院で研究をする上で必ず求められる知識を問うものなので、可否はともかく、試験自体に挑戦してみる価値があると思います。



私費外国人留学生対象 授業料減免制度について

本学では、学業・人物ともに優れ、経済的理由により修学が困難な正規留学生(私費)に対して、授業料減免制度(最大50%)を設けています。

1 対象について

本学大学院の正規課程に在学する私費外国人留学生(在留資格「留学」)で、出席状況、学業成績、家計状況等、定められた基準を満たす者。

2 減免する額について

- ① 新入生の場合 → 当該年度授業料の30%
 - ② 2年次生以上の場合 → 当該年度授業料の30%~50%
- 本制度の詳細は本学HP国際交流センターサイトよりご確認ください。

二松学舎大学 留学生ハンドブック

で検索

修了生インタビュー

博士(文学)取得 中国学専攻(博士後期課程)



石 高原さん 中国学専攻(博士後期課程)
2022年度修了

Q 日本に留学しようと思ったきっかけ、また二松学舎大学大学院に進学を決めた理由を教えてください。

A 元々、中国の河南大学で日本語を専攻しており、日本に関する文化、文学に深い興味を持っていました。本学の王宝平先生の推薦で二松学舎を知り、牧角悦子先生の研究分野である「日本における中国文学の受容」について興味を持ち、進学を決意しました。

Q 研究テーマと具体的な研究内容について教えてください。

A 研究テーマ：「近代日中における『紅樓夢』評論の成立——小説観の変遷を中心に——」
研究内容：近代日中『紅樓夢』評論の始まりと考えられる王国維の「紅樓夢評論」と森槐南の「紅樓夢論評」を主な対象として、近代小説認識の変遷という視点から、近代日中における『紅樓夢』評論の成立過程を考察し、漢文学の伝統を共有する日中両国における中国古典小説に対する評価を、近代小説観の成立という面から捉えてみました。

Q 奨学金以外で、大学から受けていたサポートなどがあれば、教えてください。

A 2021年4月～2023年3月 非常勤助手として、共同研究室の管理及び専攻に関する教育補助及び事務などを行い、給与を支給されていました。

Q 在学中、受給していた奨学金や減免制度などがあれば、教えてください。

A 二松学舎大学には留学生のための授業料減免制度があり、私もこの制度を利用し、授業料の免除を受けていました。多くの留学生がこの制度を利用しています。

Q 二松学舎大学大学院の魅力や二松学舎大学大学院で学んでよかったことなどについて、教えてください。

A 東洋文学の研究を特徴とする二松学舎では、様々な学会や研究会が多く開催されています。キャンパスでは、熱心に本を読んでいる学生達の姿がよく見られます。私も在学中は、このような落ち着いた雰囲気にも包まれながら、教員や先輩から薫陶を受け、文学の美に感動していました。

Q 現在の就職先を選んだ理由と業務内容について、教えてください。

A 現在、河南大学の外語学院で日本語講師として勤務しています。院生達の担任を兼任しながら、日中翻訳課程を担当しています。私は河南大学で修士課程修了までの7年間、学生生活を送りました。母校への強い愛校心により、現在の就職先を選びました。二松学舎で得た専門知識を、日本語専攻の学生に教授できればと思っています。

Q 二松学舎大学大学院で身についた専門性やスキルが、現在の業務にどう活かされていますか？

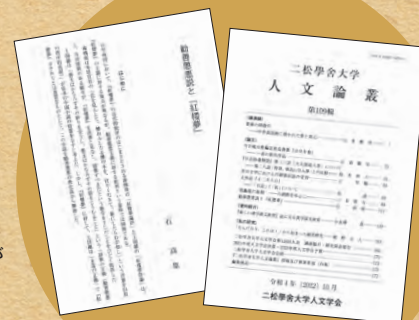
A 二松学舎で、漢文読解や日本語表現に関する専門知識を学ぶことができました。日中翻訳の授業の際、日本語と中国語の違いについて、実例を用いながら学生達に具体的に説明してあげることに役立っています。

Q 今後どのようなキャリアを築いていきたいですか？

A 今後、博士論文の研究主題をもとに、「明治時代における漢学者の中国文学研究」というテーマに取り組んでいきたいです。それと同時に、自身の研究成果を学生の指導に活用していきたいです。

Q 大学院進学を目指す受験生に、メッセージをお願いします。

A 文学は美しい。文学を学べば学ぶほど、その魅力に引き込まれていきます。二松学舎では、優れた先生方に支えられながら、院生同士切磋琢磨し、充実した研究生生活を送れることでしょう。



石 高原さんの学術論文が掲載された機関誌

入学から
博士学位
取得までの
プロセス

1 年次

春学期 入学指導教員の決定
研究テーマの選定
履修登録
春学期授業履修
研究指導

秋学期 秋学期授業履修
研究指導

2 年次

春学期 履修登録
春学期授業履修
研究指導

秋学期 秋学期授業履修
研究指導

3 年次

春学期 履修登録
春学期授業履修
研究指導
学会発表①

秋学期 秋学期授業履修
研究指導
学術論文掲載①
学術論文掲載②

春学期 履修登録
春学期授業履修
研究指導
学会発表②

秋学期 秋学期授業履修
研究指導
学術論文掲載③
博士学位請求論文提出
審査及び試験
学位授与
修了

修了後

博士論文
公表

※上記は、石 高原さんの入学から博士学位取得までのプロセスとなります。学生によってプロセスは異なります。

専修免許について

中学校または高等学校教諭一種免許状を有している学生で、本大学院文学研究科(博士前期課程・修士課程)において、有する免許状と同校種・同教科の所定の科目の単位を修得し、修士の学位を取得した学生は、専修免許状を取得することができます。

◎取得できる教員免許状

研究科・専攻		中学校教諭 専修免許状			高等学校教諭 専修免許状			
		国語	中国語	社会	国語	書道	中国語	地理 歴史
文学研究科 (博士前期課程・ 修士課程)	国文学専攻	●			●	●		
	中国学専攻	●	●		●	●	●	
	歴史文化学専攻			●				●

※専修免許状取得のためには取得する専修免許状と同校種・同教科の一種免許状を有していることが必要です。
※専修免許状取得のために必要となる科目は、免許状の校種・教科と所属する専攻によって異なります。

研究サポート体制について

1 研究倫理教育

研究倫理教育および論文作成のための導入教育を、講義形式で実施しています。研究を進めるにあたって知っておくべきこと、守るべきルール、論文を書く時の作法などについて講義形式で分かりやすく説明します。

2 日本語論文添削指導

留学生を対象に、日本語論文の個別添削指導を行っています。留学生が日本語で書いた論文やレポートなどを、予約制で個別に添削指導します。授業期間中は毎月複数回の機会を設けます。

3 研究会形式での研究指導

(中国学専攻のみ)

中国学専攻の全教員・全院生が原則参加する研究会形式の研究指導です。毎回担当者を決めて先行研究の紹介や批判をしたり、現在取り組み中のテーマの中間報告などをおこないます。ほかの学生の発表を聞いて自分の研究のヒントを得ることができます。

※内容は2026年度のもので、2027年度以降は変更になる場合があります。

専修免許の取得を目指している学生からのメッセージ

関 祐紀さん 国文学専攻(博士前期課程)

教壇に立つのであれば、もっと勉強をしなければ。そう思って大学院の門を叩きました。生徒の人生に大きく関わる国語科教員として、文学の素養をさらに高めたいと考えたからです。本学は「国漢の二松」と呼ばれている通り、国語科教員を目指す学生に充実した学修環境を提供しています。もちろん、大学院においても学部と同じく手厚いサポート体制が整っており、専修免許状取得を目指す院生に向けた高度な教育が行われてい

ると実感しています。実際に私も、指導案作成や模擬授業の際には先生方から厳しくも愛のあるご指導をいただき、胸を張って教育実習に臨むことができました。また、現在修士論文をはじめとした研究活動は少し大変ですが、日本文学を専攻している私にとっては、愚直に文献を読み思考する日々すらも教職課程の一環であるのかもしれない。憧れの教壇に立つ日を目指して学問に励む毎日です。



学生メッセージ

国文学 専攻



金丸 明日香さん 国文学専攻(博士前期課程)

私の研究テーマは、摂関期から鎌倉期にかけて見られる鬼の性質の変容です。特に病をもたらす鬼について、当時の治病法や図像にも着目しながら研究を進めています。

学部生時代より文字史料のみならず、絵画史料にも強い関心を持っていました。そして大学院で受講した講義をきっかけに、日本でも広く親しまれている鬼を研究対象にしようと考えました。特定の作品を扱っていないぶん、参照すべき資料は多岐にわたりますが、二松学舎大学にはたくさんの蔵書がそろっており、調査しやすい環境が整っていると感じます。

また、並行して専修免許状の取得も目指しているため、教育者となるにふさわしい力量も身に着けることができるよう努めていきたいと思っています。

国文学 専攻



王 風さん 国文学専攻(博士後期課程)

来日前、学部生時代の卒業論文では夏目漱石の漢詩について論じ、その過程で、漱石が漢文を学んだ二松学舎を知るに至りました。その後、留学先として二松学舎大学を選び、先生方の丁寧なご指導のもとで大学院博士前期課程の生活を送り、現在、博士後期課程に進みました。

今の研究では、漱石が受容したイギリス文学と対照させながら、漱石文学における中国表象を主題に据えています。国文学専攻には、幅広い研究領域を持つ諸先生方によって築かれた健全な研究環境があり、その中で私は常に強い安心感を抱きつつ研究に取り組んでいます。これからは、学会誌への投稿にも努め、より有意義な学期間を築いていきたいと存じます。

国文学 専攻



中村 幸恵さん 国文学専攻(博士前期課程)

カーステレオから流れる松任谷由実の曲を聴いて涙があふれ止まなくなり「昔から馴染みのある曲なのに、歌詞もメロディも今もこうして心に沁みるのはなぜだろう」と生まれた問いが大学院進学の一動機となりました。現在は「時代を超えて響く言葉―松任谷由実の歌詞における語彙構造と修辞技法の分析―」を研究テーマとして取り組んでいます。

気付けば昭和・平成・令和と3つの時代を駆け抜けてきた自分があります。AIには依存できない社会的記憶が私自身の中に眠っています。二松学舎大学附属高校、学部進学、さらに約35年にわたる職務経験を経て、同大学院にて勉強する機会を頂けたことに感謝しつつ、全身で言葉を感じ取りながら、この問いに対する答えを解明すべく研究に邁進する所存です。

国文学 専攻



香月 仙空さん 国文学専攻(博士後期課程)

私はとある国家試験の勉強中、息抜きとして触れたアニメ『忍たま乱太郎』をきっかけに、忍者作品への関心を深めました。働きながら三松大学の修士課程で忍者研究に取り組み、同作品群をテーマに修士論文を執筆しました。修了後は学会発表や海外査読誌への投稿を通して研究を継続し、その楽しさから博士後期課程への進学を決めました。

現在は小説・マンガ・アニメ・映像作品における忍者像を横断的に考察しています。二松学舎大学は文学研究で実績を持ちながら、マンガやアニメ、映像作品を専門とする先生方もいらっしゃるため、心強く感じています。今後は英語・中国語での論文執筆にも積極的に取り組み、研究成果を国際的に発信していきたいと考えています。

中国学 専攻



後藤 保夫さん 中国学専攻(博士前期課程)

以前は中学校で国語を教えておりましたが、定年を迎え、30数年前の学生時代から関心があった江戸時代の儒者・荻生徂徠について勉強したいと思い、学び直しの意味も込めて大学院に入学しました。テーマは徂徠の礼楽観です。異国の、それも遠い昔に失われているはずの古代の礼楽を、徂徠がどう捉えていたかを考えているところです。ジャンルとしては日本漢学ですが、日本のことはもちろん、中国の経学や詩文に関しての知識も必要になるので、自分にはハードルが高いと感じます。ただ、本学にはそれらに関して教えていただける先生方が多くいらっしゃるの、日々新しい知見を得る喜びを感じております。また、年の離れた同級生の方々と留学生の皆さんから、いろいろと教えていただきながら、楽しく勉強させていただいております。

中国学 専攻



大森 幹太さん 中国学専攻(博士後期課程)

主に高校の授業を通して、漢文に出てくる人々がもつ価値観は、欧米文化に影響を強く受ける現代社会と大きく異なるのではないかと、いうことに興味を抱き、本学文学部に入学しました。

博士後期課程進学後は、修士論文で取り組んだ内容を整理する中で、検討対象となる思想家一人ひとりが表出する言葉の根底に、どのような思考法が備わっていたのであろうかということに関心を寄せながら、資料を読むようになりました。

本学では、古代中国から近代日本に至るまで、多種多様な原典資料を精読する授業や研究会が実施されています。資料に表された言葉の深層にある社会背景や思想哲学にまで思索を及ぼしつつも、古典を古典として理解し、探究する態度を学ぶことのできる環境が、ここには開かれていていると感じています。

中国学 専攻



張 磊さん 中国学専攻(博士後期課程)

学部時代から、日本の中国文学研究が優れていると聞いていました。中国で修士号を取得した後、二松学舎大学の研究生として一年半学んでから、博士後期課程に進学し、本格的な研究を始めました。本学は、学術的な雰囲気が溢れていると感じます。現在は『三国志演義』における孫呉に関する物語の成立史を研究しています。

私の故郷やこれまで学んできた学校は、いずれも三国時代に孫呉の勢力範囲に属しています。そのため、小説や史書に描かれる孫呉の人文・地理には自然と親近感を抱いており、同時にそれらについてより深く理解できる気がします。本学には専門的な先生方と豊富な研究書が揃っているので、中国とはまた違った専門的視点から自分の故郷を考察し検討できることに面白さとやり甲斐を感じています。

歴史 文化学 専攻



金子 真衣佳さん 歴史文化学専攻(修士課程)

純粋に歴史学を勉強し続けたいという思いから大学院に進学いたしました。支援してくださった皆様には感謝しきれません。本学の特徴の一つは、恵まれた学修環境とその立地にあると考えております。昭和館、しょうけい館をはじめ、多くの博物館資料館に連れ立っていただきました。また、このように学外に出る研究姿勢にも感銘を受け、大学院に進むことに決めました。

現在は、「非戦闘員としての女性はどう戦争動員されたのか」を読み解くことを研究テーマとしています。このテーマに決定した背景には、日本遺族会との交流や、帰還者の記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館)様との共同展示を行った経験があります。戦争被害者の歴史に多く触れるなかで、それでも人々が戦争に動員された経緯に関心が湧いていきました。一期生であることから緊張もありますが、先生方の指導を真摯に受け止め、修士論文を完成させ、後続の院生に続くよう日々邁進してまいります。

社会で活躍する修了生

国文学
専攻



東海大学付属相模高等学校 教諭

菊地 杏さん 2025年度 博士前期課程修了

私は大学院進学にあたり、学部時代から続いていた『竹取物語』の研究をさらに深めたいと考えていました。同時に、将来は教員として教育現場に戻ることを見据え、専門的知識や実践的な指導力を身につけたいという思いもありました。そのため、国文学だけでなく国語教育についても学ぶことができ、専修免許状の取得を目指す環境の整った二松学舎大学大学院を選びました。

大学院では、高校段階の古典教育を想定しながら『竹取物語』を研究し、和歌や古典に親しむための授業づくりについて考え続けまし

た。その学びは、現在、中高一貫校で国語科教員として授業を行う中で、中学生が初めて古典に触れる場面にも活かされています。なかでも教科書「を」学ぶのではなく、教科書「で」学ぶ授業を目指す今の実践の基盤となりました。

大学院で過ごした二年間は、単に知識を深めるだけではなく「どのように伝えるか」を考える時間でもありました。特に教員を志す人にとっては、研究と授業実践とを連続して学べることは、大学院で学ぶ大きな一つの意義になると思います。

国文学
専攻



高澤学園すいどーばた美術学院 職員

村松 未由さん 2024年度 博士前期課程修了

二松学舎大学大学院の文学研究科を選んだ理由は、複合動詞の後項について卒業論文を書いたので、前項についてもさらに研究したいと思ったことがきっかけです。

所属していたゼミの島田泰子先生も接辞を研究されていたことと専攻の講義から日本語の流れを通時的に学ぶことができるのはこしかない!と思い、学部からの進学を決めました。大学院進学後は、複合動詞の前項(前部形態素)にみられる打撃系動詞について研究しました。

現在は、美術系の専修学校の職員として勤めています。自身の専門分野とは離れていますが、やりたいことに向かって真剣に取り組む

学生たちの姿を間近で見ることができる今の環境は、大学院での生活と似ていてとても励みになります。

大学院の研究で培った日本語の知識から、広報職におけるスタイルガイドの作成や学校のHP校正・校閲業務も任せていただいております、やりがいを感じています。

日本語学そして国語力はどのような場でも活かせるものだと思います。

大学院での研究では知識だけではなく、やり抜く力や考える力、解決へ向かう力も身につきました。人としても成長できる場で過ごした大学院での2年間は、私にとってかけがえのない時間でした。

国文学
専攻



神奈川県立横浜翠嵐高等学校 教諭

小出 悠嗣さん 2020年度 博士前期課程修了

学部生として4年間学んできた国文学について、より深く研究をしたいという思いから大学院への進学を決めました。大学院では、『万葉集』の宴席歌群における構造について研究すると同時に、幅広い時代やジャンルの作品を読み、理解を深めました。また教職の講義を受講してもいたため、教材をいかに読み解き、どのように生徒に提示すれば効果的な学びに繋がるのかということについて、実際に教壇に立たれている先生から教えていただきました。

私は現在、神奈川県立横浜翠嵐高等学校で教諭として勤務して

います。多くの生徒が難関大学への進学を目指しており、教科指導の高い専門性が求められる中で、学部・大学院での学びを通して身につけた力が授業作りに役立っています。加えて、大学院の講義は発表演習が中心だったため、「自分の考えを分かりやすく伝える力」を磨くこともできました。大学院での二年間があったからこそ、現在の日々の授業にこだわりをもって、全力で取り組むことができています。

国文学
専攻



サレジオ工業高等専門学校 講師 兼 二松学舎大学 非常勤講師

大貫 正皓さん 2010年度 博士後期課程 単位取得満期退学、2024年度 博士(文学)取得

大学院への進学は、大学入学以前から興味があった平安時代の作品研究に、一層深く取り組みたいとの思いから決断しました。

私の行っている研究は、平安中期における摂関家の文芸(『一条摂政御集』、『本院侍従集』などの和歌文学や『蜻蛉日記』)を、従来とは異なる視点から体系的に把握すること、さらにはそれら諸作品と『枕草子』、『源氏物語』といった次代を代表する文芸との、密接な繋がりを発見出すことです。そして、この研究は大学院時代の取り組みに基づいています。緻密な検証方法や実態を把握し体系化する方法を、講義・演習・研究指導を通し、学ばせてもらったことが、今の

研究に確実に生きています。

現在は高等専門学校の専任講師として研究・教育に携わり、また本学非常勤講師も担当させていただいています。研究を通し明らかにし得た、文芸、文化の実態を、学界に、そして学生や生徒の皆さんに伝えさせていただく意義を実感しています。

また大学院では、対象の実態を、的確に魅力的に教授する方法も、丁寧にご指導いただきました。研究にとって欠かせない教育力を培え、専修免許状を取得できたことは、私にとって大きな財産となっています。

国文学
専攻



河南農業大学(中国・河南) 日本語科 講師

楊 爽さん 2017年度 博士後期課程修了、博士(文学)取得

日本の漢文学に興味をもっているため、漢文学の研究で知られる二松学舎大学を選び、博士後期課程に入学しました。日本の漢文学は「国文学」にカテゴライズされますが、ただ日本のことだけを集中して研究すればよい、というわけではありません。そのため、漢文学(「国文学」)以外にも、「中国学」の課程も充実した二松学舎大学での三年間は、研究へのたしかな基礎を与えてくれました。

在学中は、二松学舎大学が主催する様々な学会やシンポジウムで発表することができ、研究の視野を広げることができました。また、学内に設置された東アジア学術総合研究所での勤務や、国際学会での発表や運営等にも携わり、経験を積むことができました。

さらに、国際交流を重視する二松学舎大学には、国際交流センターという留学生のための支援機構があり、留学生のための交流会やイベント等、様々な活動が行われています。そのこともあずかって、研究以外の面もふくめた、多彩で充実した留学生活を送ることができました。

現在、私は中国の河南省にある河南農業大学で日本語教師をしています。よく、学生たちには二松学舎大学での留学生活について、感激を込めて伝えています。先生たちの学問に対する真摯さや情熱に深い感銘を受けた私にとって、二松学舎大学は、私を研究の道に導いた存在と言えるのです。

中国学
専攻



二松学舎大学 非常勤講師

山路 裕さん 2024年度 博士後期課程修了、博士(文学)取得

私が本学の文学研究科に進学しようと思ったのは、自分の漢文読解能力をさらに高めたいと思ったからでした。私は高校生の頃から漢文を読むのが好きで、学部でも日々漢文と格闘し、自力で理解できるようにになりたいと思っていました。しかし、漢文は古代中国語です。現代日本語を日常的に使用する私が漢文を読みこなすには、それ相応のトレーニングを積み重ねなければいけません。幸いにも日本には、漢文を日本語として読むための訓読という技法がありますので、これによってある程度は漢文を理解できます。ですが、漢文読解能力を高め

るためには、文法や語彙に対する鋭い感性、思想史・文学史・文化史に対する広い関心など、総合的な知識を駆使することが求められます。そうした分野に精通する先生方が本学に在籍していることは、私にとって大きな魅力でした。

私は現在、本学の非常勤講師として授業を担当しています。二松学舎は長い歴史をもつ学び舎です。そこには篤実な研究と教育が脈打ち、それを担う教員がいます。そのような二松学舎で学べたことは、いまま私を支えています。

中国学
専攻



公益財団法人東洋文庫図書部 主幹研究員 兼 二松学舎大学 非常勤講師

清水 信子さん 2000年度 博士後期課程 所定単位取得満期退学

国文学を学ぶと大学に入学しましたが、学びを深める中で日本の文化・学術における中国からの影響を実感し、まずは中国の学問を学ばねばと考えるようになりました。また、書物自体の成立や伝播を研究する「書誌学」という学問を知り、何百年も前に作られた書物という“モノ”に実際に触れながら、当時の人々の思考を実証的に辿る面白さに惹かれ、書物を通して日本における中国学を受容を研究したいと大学院に進みました。

大学院では体系的なことから文献解釈の方法など、「中国学」という学問を基礎からご教示いただきました。自身の研究としては、日本

における『老子』の受容について、室町期の写本や江戸期に出版された注釈書を調査していきました。調査にあたっては、国会図書館や内閣文庫など様々な図書館に出向きましたが、都心に位置する二松学舎の立地には大いに助けられました。

現在は公益財団法人東洋文庫にて図書の受入や和漢古典籍の整理などを担当しつつ、二松学舎で非常勤講師を務めています。大学院で得た知識や経験、そして今も繋がる先生方とのご縁は、実務、研究の両面で大きな支えとなっています。

教育・研究環境

都心の九段キャンパスで学ぶ

東京都心、そのさらに中心に位置する千代田区三番町。都心にありながら、春には桜、秋には銀杏並木の美しい落ち着いた佇まいを見せる街です。

この文教施設や商業ビルが立ち並ぶ都心の一等地に九段キャンパスはあります。

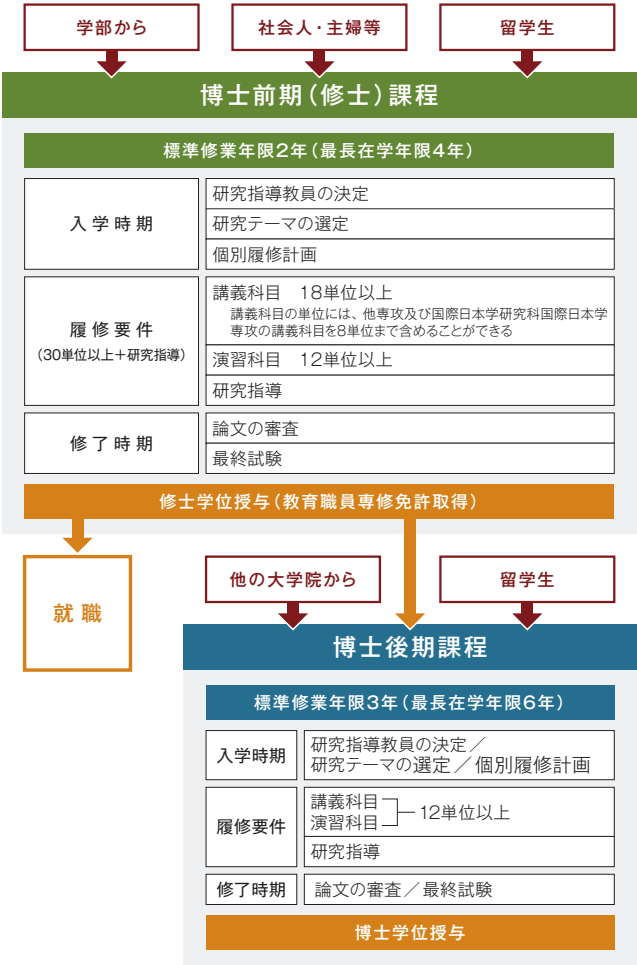
歴史の息吹と文化の薫りを存分に満喫してください。

さまざまな履修形態が可能

文学研究科における教育は、指導教員による「研究指導」と授業科目の履修によって行われ、各自の研究分野に必要な授業科目を履修します。授業は2～5時限の昼間、6・7時限の夜間に開講しており、学生は昼間・夜間の別なくいずれも履修できます。夜間に受講する社会人学生のために、各分野の科目を開講しています(昼夜開講制)。このほか、長期休暇期間に集中講義を開講する場合があります。

※集中講義・土曜日の開講は年度によって異なります。

◎入学から修了までの流れ



大学院生用 施設・設備

図書館 <1号館>
九段キャンパスの図書館では約21万冊の図書資料を収蔵。柏キャンパス(千葉県)の図書館は約15万冊を収蔵しています。

国文学／中国文学(中国学)共同研究室・大学院生控室 <1号館>
辞書類や基礎的資料、映像メディア等の視覚資料をそろえ、大学院生が便利に利用できる環境を整えています。

九段キャンパスの周辺環境

国立公文書館

国立国会図書館

神保町古書店街

国立公文書館

日本漢学研究の国際的拠点

二松学舎大学は2004年度に文部科学省21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」に採択され、その後も「日本漢文教育研究プログラム」を経て、2015年度には文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として「近代日本の「知」の形成と漢学」プロジェクトが採択されました。これは、日本学と中国学、近代と古典を結ぶ新たな学びを展開していくとする本学独自の学術計画が高い評価を得たことを意味します。

本大学院中国学専攻の「日本漢学講座」科目群ではその成果の一端に触れることができ、また学生は、日々深化する研究の担い手となることができます。

なお、本学は日本漢文研究の国際的拠点となるべく、国内はもとより世界も視野に入れた活動を行っており、海外研究拠点を世界各地に設け、研究員の派遣・受け入れや国際シンポジウムの開催を行っています。

取得できる学位が広がる

二松学舎大学は、2015年度から2019年度までの5年間にわたって、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、「近代日本の「知」の形成と漢学」という研究プロジェクトを推進しました。このことを受けて、二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻は「日本漢学」の拠点として、新たな学位を設けました。

課程	専攻	取得できる学位
博士前期課程・修士課程	国文学専攻	修士(文学)
	中国学専攻	修士(文学)又は修士(日本漢学)
	歴史文化学専攻	修士(歴史文化学)
博士後期課程	国文学専攻	博士(文学)
	中国学専攻	博士(文学)又は博士(日本漢学)

2つの国で2つの大学院の学位が取得可能(博士前期・修士課程のみ)

2018年4月から、本学協定校の1つである中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院(日本の大学院に相当)とのダブル・ディグリー・プログラムを開始しました。

ダブル・ディグリーとは、本学文学研究科と中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院との間で、教育課程・履修内容・単位互換等について協定を締結し、それぞれの大学院で学ぶことで、2つの大学院の修士学位が取得可能な制度です(中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院への留学が必須となります)。

中国・浙江工商大学東方語言・哲学学院にサテライト教室が設けられており、日本と中国(留学)の両大学院の国で学ぶことにより、2つの学位が取得可能となっています。

海外協定校との大学院生交流プログラム

本大学院は以下の大学と学生交流プログラム協定を締結しています。



北京大学 (中国) 浙江工商大学 (中国)



中国文化大学 (台湾) 成均館大学校 (韓国)



リール大学 (フランス) ボルドー・モンテーニュ大学 (フランス)



カ・フォスカリ大学 (イタリア) エトヴェシュ・ロラント大学 (ハンガリー)

国文学専攻の教員と開講科目

教員一覧 2026年度

※2026年度の担当教員・博士前期課程担当科目等一覧です。
2027年度以降は変更となる場合があります。

- ①最終学歴
- ②専門分野
- ③最近の研究課題

前 | 研究指導

博士前期課程のみ
研究指導を担当する教員

前・後 | 研究指導

博士前期・後期課程の
研究指導を担当する教員

希望する指導教員を選択する際に、上記を参考にしてください。

前・後 | 研究指導山口 直孝 教授／研究科長やまぐち ただよし

担 当 科 目近代文学演習ⅢA・B

①関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程日本文学専攻単位取得満期退学、博士(文学)(関西学院大学) ②日本近代の小説 ③(1)「私小説」概念の近松秋江・志賀直哉における受容と創作の展開の分析、(2)大西巨人を中心とする文学芸術運動、(3)横溝正史文芸の展開相の把握

前・後 | 研究指導妹尾 好信 教授／専攻主任せのお よしのぶ

担 当 科 目古典文学講義ⅣA・B

①広島大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士課程後期中途退学 ②平安朝文学 ③平安時代に成立した物語(特に『伊勢物語』を中心とした歌物語)や私家集の読解研究

前・後 | 研究指導迫田 幸栄 教授さこた さちえ

担 当 科 目日本語学講義ⅠA・B

①大東文化大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)(別府大学) ②日本語学(形態論・構文論)・日本語教育学(教材分析) ③(1)言語コーパスに基づく日本語の記述と分析、形態論、構文論と連語論(2)日本語(国語)教育の教材(教科書)分析

前・後 | 研究指導塩沢 一平 教授しおざわ いっぺい

担 当 科 目古典文学演習ⅢA・B

①東京大学大学院 人文社会系研究科 日本文学専攻 博士課程修了、博士(文学)(東京大学) ②古代和歌・歌謡論、歌謡曲・J-POP論(ダブルメジャーとして、高等教育研究) ③万葉宮廷歌人歌の創造・享受・継承に関する研究。この研究を援用した現代歌謡・J-POP研究。(ダブルメジャーとして、文学教育・研究のレリハンス研究)

前・後 | 研究指導島田 泰子 教授しまだ やすこ

担 当 科 目日本語学演習ⅡA・B

①奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程比較文化学専攻単位取得満期退学、博士(文学)(奈良女子大学) ②日本語学(歴史的変遷の解明、分野融合的研究) ③言語変化とその兆候・歴史的位付け等に関する分析、語構成論(接尾語研究)

前・後 | 研究指導五月女 肇志 教授そうめだ ただし

担 当 科 目古典文学演習ⅦA・B

①東京大学大学院 人文社会系研究科博士課程修了、博士(文学)(東京大学) ②中世和歌文学 ③藤原定家・源俊賴等の中世歌人による『万葉集』・王朝物語の享受の問題。古典作品の本文異同から見出される諸問題の分析

前・後 | 研究指導瀧田 浩 教授たきた ひろし

担 当 科 目近代文学演習ⅡA・B

①立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)(二松学舎大学) ②日本近代文学、文化研究 ③武者小路実篤が主要研究対象であるが、高度経済成長期下の文化にも目を向けている。

講師(2026年度)

小森 正明

六谷 明美

湯浅 佳子

前・後 | 研究指導中谷 いずみ 教授なかや いずみ

担 当 科 目近代文学と国語教育／メディア学講義ⅡA

①日本大学大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻修了、博士(文学) ②日本近代文学・文化 ③ジェンダー・セクシュアリティとメディア表象、暴力／抵抗の歴史と文化運動、戦争をめぐる集合的記憶と文学・文化

前・後 | 研究指導原 由来恵 教授はら ゆきえ

担 当 科 目古典文学演習ⅤA・B

①二松学舎大学大学院博士後期課程修了、博士(文学)(二松学舎大学) ②平安朝散文学、伝承論 ③今まで解析されずにきた『枕草子』地名類聚章段の解釈から、作者清少納言の執筆意識と作品の文学性を抽出し、作品の解明を目指している。

前・後 | 研究指導森野 崇 教授もりの たかき

担 当 科 目日本語学講義ⅣA・B

①早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学 ②日本語文法史(特に助詞、助動詞の通時的研究) ③係り結びの構造や、係り結びを引き起こす係助詞について、捉えなおしている。また、助詞と待遇表現との関わりにも関心をもつ。

前・後 | 研究指導吉丸 雄哉 教授よしまる かつや

担 当 科 目古典文学講義ⅩA・B

①東京大学大学院 人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学、博士(文学)(東京大学) ②日本近世文学、忍者忍術学 ③江戸時代後期の大衆向け娯楽小説である戯作の研究。江戸時代から現代に至るまでの虚構の忍者像の形成と変遷の研究。

奥川 育子 准教授おくがわ いくこ

担 当 科 目日本語学演習ⅢA・B

①筑波大学大学院 人文社会科学研究科文芸・言語専攻単位取得満期退学、博士(言語学)(筑波大学) ②日本語学(談話・文法)、日本語教育、日英対照言語学 ③(1)日本語母語話者と日本語学習者のナラティブ分析(2)日本語学習者の視点表現の習得と日本語教育への応用(3)日本語と外国語(英語・中国語等)談話の対照研究

長谷川 豊輝 専任講師はせがわ とよき

担 当 科 目古典文学講義ⅡA・B

①東京都立大学大学院 人文科学研究科文化関係論専攻博士後期課程修了、博士(文学)(東京都立大学) ②日本上代文学 ③(1)九州の風土記と正史・漢籍の比較分析による地方統治システムの解明(2)『日本書紀』における歌と散文の分析による歴史叙述システムの解明

開講科目一覧 2026年度

※科目名は2026年度のものです。2027年度以降は変更となる場合があります。

博士前期課程

国文学講座
古典文学講義ⅡA・B
古典文学講義ⅣA・B
古典文学講義ⅩA・B
国語科教育学
古典文学と国語教育
近代文学と国語教育
古典文学演習ⅢA・B
古典文学演習ⅤA・B
古典文学演習ⅦA・B
近代文学演習ⅡA・B
近代文学演習ⅢA・B

日本語学講座
日本語学講義ⅠA・B
日本語学講義ⅣA・B
日本語学演習ⅡA・B
日本語学演習ⅢA・B

総合文化学講座
メディア学講義ⅡA
書道演習ⅡA・B

博士後期課程

古典文学特殊講義ⅣA・B
古典文学特殊講義ⅤA・B
古典文学特殊講義ⅩA・B
近代文学特殊講義ⅠA・B
近代文学特殊講義ⅢA・B
古典文学特殊演習ⅠA・B
古典文学特殊演習ⅨA・B
近代文学特殊演習ⅡA・B
日本語学特殊講義ⅠA・B
日本語学特殊演習ⅠA・B
日本語学特殊演習ⅢA・B
日本文化学特殊講義ⅠA・B

修士論文

題目
2025年度 美少年の継承 ――「恋人たちの森」から雑誌『JUNE』へ――
「竹取物語」の研究―作中和歌の効果について―
『平家物語』道行考
2024年度 娼婦表象の研究――芥川龍之介を中心に
川端康成『乙女の港』論――三千子と克子の関係性から三人エスの行方
『発心集』神明説話論
戦闘美少女と変身―『美少女戦士セーラームーン』を中心に―
釈道空「死者の書」論―「語る者」の存在論―
是枝裕和の映画における「社会的マイノリティ」表象 ―「誰も知らない」、「万引き家族」、「怪物」を中心に
描かれた『風の谷のナウシカ』を読む
複合動詞形の前部形態素に見られる打撃系動詞についての考察
2023年度 日本語と中国語における依頼と受諾および拒絶の表現に関する研究
『銀河鉄道の夜』における「蠟の火」の必要性 ―「よだかの星」と「蠟の火」の仏教観比較を中心に―
『源氏物語』「紫のゆかり」の研究
古代・中世における形態異常児の研究
角田光代『紙の月』論
三島由紀夫論 ―自由と回帰―
2022年度 『満韓ところどころ』における「満」と「韓」の表記について
『モノノケ』の語義・表記の変遷
壺井栄研究―『十五夜の月』論―
『斜陽』における人物像
越境する『和食』イメージ 中国人における『孤独のグルメ』受容を考察の起点として
川上未映子作品における痛みの身体感覚
西尾維新「クビキリサイクル」論―「つながり」の補完と「決断」への移行―
武者小路実篤『ある青年の夢』の中国における影響―魯迅と孫俚工を中心に―

博士論文

題目
2025年度 太宰治文学の戦中戦後―人物像の再定位を中心に
融合と再構築の旅――近代日本における知識人の「中国像」――芥川龍之介、谷崎潤一郎を中心に
2024年度 武者小路実篤文学の構造と同時代状況
平安中期における九条流藤原氏の文芸についての研究
夏目漱石初期作品考―「文明」と「革命」をめぐる―
『古事記』における漢文助字
平安中期における文学の戦略性についての研究―高棟流桓武平氏の動静から
2023年度 日中探偵小説の相互交流に関する研究
上代文学における多元的世界観の研究
2022年度 アジア太平洋戦争後の＜私小説＞の研究：文学場の変容と拡張
成語と諺の日中対照研究――植物を使う事例を中心に

文学研究科の
シラバス詳細は
こちらから
検索できます



中国学専攻の教員と開講科目

教員一覧 2026年度

※2026年度の担当教員・博士前期課程担当科目等一覧です。
2027年度以降は変更となる場合があります。

前・後

伊藤 晋太郎 教授／専攻主任

いとう しんたろう

担 当 科 目

中国文学演習②A・B

①

慶応義塾大学大学院文学研究科中国文学専攻後期博士課程単位取得満期退学、博士(文学)(早稲田大学)

②

三国志・中国古典通俗文学

③

三国時代の武将でありながら、後代に神として崇拜されることになった関羽について、文学的方面、歴史的方面、宗教的方面から研究している。

田中 正樹 教授

たなか まさき

担 当 科 目

中国思想演習②A・B

①

東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(文学)(東北大学)

②

宋代士大夫の学術、近代の漢学

③

(1)北宋期の思想(三蘇・蘇門六君子)(2)南宋の学術筆記(洪邁等)(3)中国美学(風景認識)(4)山田方谷・三島中洲の思想

前・後

橋本 秀美 教授

はしもと ひでみ

担 当 科 目

東アジア漢字文化圏比較特殊講義①A・B

①

北京大学中文系古典文献専攻博士課程修了、文学博士

②

中国古典文献学・学術史

③

鄭玄の經典注の読解を進めています。現代の常識は宋清実学を基礎とするため、漢唐經学を理解するには、常識を批判的に反省し、漢唐の思考を虚心に探る作業が必要です。

前・後

牧角 悦子 教授

まきずみ えつこ

担 当 科 目

中国文学講義②A・B

①

九州大学大学院文学研究科中国文学専攻博士後期課程中退、博士(文学)(京都大学)

②

中国古典詩・漢魏六朝文学論、聞一多研究、中国近代学術

③

中国の古代文学、詩經・楚辞を中心にその成立と解釈、及び近代における古代学の成立、中国詩歌の歴史的変遷を、歌と詩という視点から再構築すること。

前・後

町 泉寿郎 教授

まち せんじゅろう

担 当 科 目

日本漢学講義②A・B

①

二松学舎大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了、博士(文学)(二松学舎大学)

②

日本漢文学(15～19世紀日本の学芸史―儒学と医学を中心に)

③

(1)室町時代～江戸初期における新注学、(2)漢方医学史、特に医学館等における考証学、(3)近代化過程における漢字・漢文・漢学、(4)岡山の漢学、(5)渋沢栄一

講師(2026年度)	高澤 浩一	中根 公雄
------------	-------	-------

前

研究指導

博士前期課程のみ
研究指導を担当する教員

前・後

研究指導

博士前期・後期課程の
研究指導を担当する教員

希望する指導教員を選択する際に、上記を参考にしてください。

小方 伴子 特任教授

おがた ともこ

担 当 科 目

中国語学演習②A・B

①

東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻博士課程修了、博士(文学)(東京都立大学)

②

中国語学(古典)、『国語』研究

③

(1)清朝及び江戸時代に於ける『国語』の伝承、校勘、注釈に関する研究、(2)『国語』及び『国語』章昭注の語法研究

権田 瞬一 専任講師

ごんだ しゅんいち

担 当 科 目

書道教育学

①

筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム(博士後期課程)単位取得満期退学、博士(芸術学)(筑波大学)

②

書道実技、篆刻学

③

近代の日中篆刻名家における中国璽印篆刻の受容と展開について、実証的な方法論を用いて論究すること。

関 俊史 専任講師

せき としふみ

担 当 科 目

中国文化学特殊講義②A・B

①

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)(早稲田大学)

②

中国書学・書道史、書道実技

③

中国において書がいかに価値づけられ、価値を持つに至ったかを思想的・時代的要請、書論の内的な理論構築の過程を分析することで考究している。

前

和久 希 専任講師

わくのぞみ

担 当 科 目

中国思想講義②A・B

①

筑波大学大学院一貫制博士課程人文社会科学研究科哲学・思想専攻修了、博士(文学)(筑波大学)

②

中国哲学、形而上学、中国古典文学

③

魏晉玄学とその展開相としての玄言詩について

開講科目一覧 2026年度

※科目名は2026年度のもので。2027年度以降は変更となる場合があります。

博士前期課程

- 中国学講座
- 中国文学講義②A・B
- 中国思想講義②A・B
- 中国文学演習②A・B
- 中国思想演習②A・B
- 中国語学演習②A・B

- 日本漢学講座
- 日本漢学講義②A・B
- 漢文学(文学)と国語教育
- 漢文学(思想)と国語教育

- 総合文化学講座
- 中国文化学特殊講義②A・B
- 日中比較文化学特殊講義②A・B
- 東アジア漢字文化圏比較特殊講義①A・B
- 日本語学講義A・B
- 書道演習②A・B
- 書道教育学

博士後期課程

- 中国文学特殊研究①A・B
- 中国思想特殊研究③A・B
- 中国思想特別演習⑤A・B
- 中国語学特別演習①A・B
- 日本漢学特殊研究⑥A・B
- 中国文化学特別演習①A・B
- 日中比較文化学特別演習③A・B

修士論文

題目
2025年度 〔三国志演義〕李卓吾評の用字と人物像
南北朝における儒仏道三教の交渉について―范縝の『神滅論』を焦点に―
『孫子』の注釈と受容 ――十一家注孫子を中心に――
阮籍「楽論」の座標―「移風易俗」および「自然」の理解を通して―
内藤湖南・羅振玉と日蔵『王勃集』古写本残巻の研究
2024年度 中国山水画における空間表現の特色 ―『林泉高致集』と《早春図》を巡る議論を中心として―
『紅樓夢』における才子佳人小説の継承と超克
中国「文言小説」における猫の形象について―明清の「義猫譚」を中心に―
明治期関義臣と日中学術交流―『日本名家経史論存』を中心として―
六朝期における「詩」の認識と評価 ―『文心雕龍』明詩篇に見える「清」の語を中心に―
2023年度 〔三国志演義〕における司馬懿像 ―人物像から見る作者の正統観―
魏晉南北朝期における范蠡像の受容
漢方復興運動の変遷と歴史的意義 新妻莊五郎、南拝山、矢数道明らを一例として
2022年度 〔財政四網〕銭恂自序における中体西用について
清代の文言小説における関羽 ―『聊齋志異』『子不語』『続子不語』『閱微草堂筆記』を中心に―
日本亡命期における郭沫若に関する一研究 ――人とのつながりを中心に――
2021年度 李滉 退溪 理気論の研究 ―中国朱子学から朝鮮朱子学へ
「本朝無題詩」における白楽天の諷諭詩の受容について
金庸小説における女性観の変遷について
北宋士大夫における「性」説論議の場の共有と分化―王安石「性」論と道学―
『聊齋志異』の恋愛物語 ―「才子佳人小説」の系譜として―
中国史書日本関係記事の集録に関する書誌学的考察―江戸時代を中心に
中国宋代知識人が形象化する人生像―朱熹「小学」をてがかりに―
張衡「應間」の典故表現

博士論文

題目
2024年度 王畿思想の再定位―その工夫論と経世意識―
『搜神記』の編纂と儒教思想―災異の記述を中心に
2023年度 李文権研究 ―対日活動を中心に―
末松謙澄の漢学に関する基礎的研究 ―その漢詩及び人文学研究
2022年度 近代日中における『紅樓夢』評論の成立 ――小説観の変遷を中心に――
于右任「標準草書」研究 ―中国近代の文字改革との関係を中心に―
明代会同館の基礎的研究
2021年度 植民地台湾・朝鮮漢文教育形成過程の研究

文学研究科の
シラバス詳細は
こちらから
検索できます



歴史文化学専攻の教員と開講科目

教員一覧 2026年度

※2026年度の担当教員・修士課程担当科目等一覧です。
2027年度以降は変更となる場合があります。

最終学歴
専門分野
最近の研究課題

研究指導

野村 啓介 教授／専攻主任

のむら けいすけ

担 当 科 目

西洋歴史文化学講義Ⅰ、西洋歴史文化学演習Ⅰ・Ⅱ

九州大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)
西洋史学
近代フランス政治社会史、仏日外交史、ヨーロッパワイン文化史

研究指導

林 英一 准教授

はやし えいいち

担 当 科 目

日本歴史文化学演習Ⅴ、東アジア歴史文化学演習Ⅰ

慶應義塾大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士(社会学)（一橋大学）
日本・東南アジア関係史
残留日本人、南方抑留

研究指導

王 宝平 教授

おう ほうへい

担 当 科 目

東アジア歴史文化学演習Ⅲ・Ⅳ

北京外国语学院(現:北京外国語大学)北京日本学研究中心言語文学研究科修了、博士(文学)(関西大学)
日中文化交流史
(1)大河内文書をはじめとした筆談資料の整理と研究、(2)近代日中文化交渉史

研究指導

小山 聡子 教授

こやま さとこ

担 当 科 目

日本歴史文化学講義Ⅰ・Ⅱ

筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻修了、博士(学術)(筑波大学)
日本中世宗教史
(1)古代・中世社会でモノケがどのように捉えられ、いかなる対処がなされたのか、検討していく。(2)龍鬘やその家族、門弟の信仰を理想化するのではなく、歴史の中に位置づけて論じることにより、彼らが生きていた社会について明確にしていく。

研究指導

中川 桂 教授

なかがわ かつら

担 当 科 目

日本芸能史演習Ⅰ・Ⅱ

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)
日本芸能史(近世芸能興行史・寄席芸能史)
近世大坂の諸芸研究、武家・商家の芸能享受

研究指導

麻生 将 専任講師

あそう たすく

担 当 科 目

日本文化史特殊講義Ⅰ・Ⅱ

立命館大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)
人文地理学、近代日本の地理思想とキリスト教思想
近代日本のプロテスタント教会の立地と都市形成との関係について

研究指導

大庭 裕介 専任講師

おおば ゆうすけ

担 当 科 目

日本歴史文化学講義Ⅲ・Ⅳ

国士舘大学大学院人文科学研究科博士課程修了、博士(人文科学)(国士舘大学)
明治維新史、日本近代史
司法省や外務省など中央官省の形成／近代法の継受と固有の法制度形成／明治維新史を対象とした史学史

講師(2026年度)	小森 正明
------------	-------

開講科目一覧 2026年度

※科目名は2026年度のものです。2027年度以降は変更となる場合があります。

日本歴史文化学講座	東アジア歴史文化学講座	西洋歴史文化学講座	総合文化学講座
日本歴史文化学講義Ⅰ～Ⅳ 日本歴史文化学演習Ⅴ	東アジア歴史文化学演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	西洋歴史文化学講義Ⅰ 西洋歴史文化学演習Ⅰ・Ⅱ	日本文化史特殊講義Ⅰ・Ⅱ 日本芸能史演習Ⅰ・Ⅱ 日本史料学講義Ⅰ 日本史料学演習Ⅰ 中国思想講義②A・B 中国思想演習②A・B

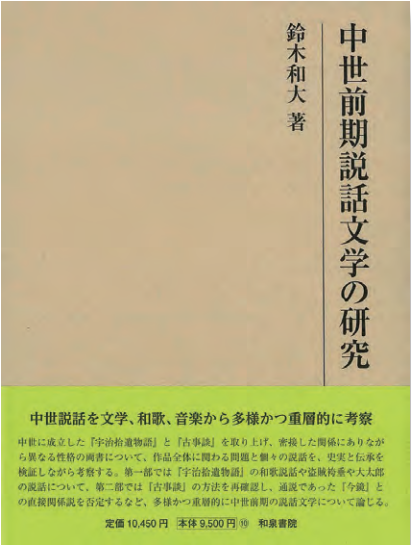
文学研究科の
シラバス詳細は
こちらから
検索できます

研究活動支援制度

文学研究科では、文学研究科における有為な研究者育成に資することを目的に、以下の通り、所属学生への研究活動の支援制度を設けています。

- 学会参加交通費支援
- 1人につき当該年度1回に限り
50,000円を上限として支給
- 画像・図版引用料支援
- 1人につき当該年度1回に限り
10,000円を上限として支給
- 論文掲載料・投稿料支援
- 1人につき当該年度1回に限り
10,000円を上限として支給
- 博士論文出版支援
- 1人につき1回に限り
500,000円を上限として支給

2024年出版
博士論文出版支援対象実績
鈴木 和大 著
『中世前期説話文学の研究』
(和泉書院、2024年2月)



多様な教育・研究制度

- ◎委託研修生
- 公的な機関・団体または外国政府等から、本学大学院の授業科目の履修および研究指導の委託があった場合、委託研修生として受け入れています。
- ◎研究生
- 大学学部卒業者以上を対象とした研究制度です。特定の専門事項について研究を志願する方を選考のうえ研究生として受け入れ、研究指導を行います。
- ◎科目等履修生
- 科目等履修生とは、一般社会人等に対してパートタイムによる学習機会を拡充し、その成果に適切な評価を与える(単位認定する)ことを目的として設けられた制度です。
本大学院でも1科目または複数の授業科目の履修を希望する方を、科目等履修生として積極的に受け入れています。履修期間 は原則として1年間になります。

学会および定期刊行物について

大学院紀要『二松』
大学院文学研究科の関係者(教員、助手、学生等)による研究成果の発表を目的とする論文集です。



二松学舎大学人文学会
二松学舎大学人文学会は、教員・同窓生・学生を中心とした研究機関です。国語国文学・中国学および一般人文科学に関する研究と会員相互の親睦を図る目的で組織されました。講演会と春秋2回の定期研究発表会、機関誌『人文論叢』の発行を行っています。



2027年度 入試情報

募集定員

課 程	専 攻	
博士前期課程・修士課程	国文学専攻	12名
	中国学専攻	12名
	歴史文化学専攻	8名
博士後期課程	国文学専攻	5名
	中国学専攻	5名

試験日程等

秋季試験	
願 書 受 付 期 間	2026年9月9日(水)～9月24日(木) 締切日消印有効
試 験 日	筆記試験 2026年10月3日(土)※ 面接試問 2026年10月4日(日)※ 博士前期課程・修士課程社会人入試のみ筆記試験と面接試問を10月4日(日)同日に実施。
合 格 発 表	2026年10月16日(金)
入学手続締切日	2026年10月23日(金)締切日消印有効
春季試験	
願 書 受 付 期 間	2027年1月12日(火)～2月5日(金) 締切日消印有効
試 験 日	筆記試験 2027年2月19日(金)※ 面接試問 2027年2月20日(土) 博士前期課程・修士課程社会人入試のみ筆記試験と面接試問を2月20日(土)同日に実施。
合 格 発 表	2027年3月1日(月)
入学手続締切日	2027年3月8日(月)締切日消印有効

※出願者数により、筆記試験と面接試問を同日に実施する場合があります。

試験科目等

博士前期課程・修士課程		
国文学専攻	試験種別	試験科目
	一般入試※1	○専門科目[古典文学・近代文学・日本語学から2科目選択](90分・200点) ○外国語[英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択](60分・100点)※2 ○面接試問
	社会人入試	○小論文(60分・100点) ○面接試問
	外国人留学生入試	○小論文(60分・100点) ○面接試問
中国学専攻	試験種別	試験科目
	一般入試※1	○専門科目[中国文学・中国思想・日本漢学から1科目選択]・小論文(90分・200点) ○外国語[英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択](60分・100点)※2 ○面接試問
	社会人入試	○小論文(60分・100点) ○面接試問
	外国人留学生入試	○小論文(60分・100点) ○面接試問
歴史文化学専攻	試験種別	試験科目
	一般入試※1	○専門科目[日本史・アジア史・西洋史・思想文化史から1科目選択(出願時選択)](90分・200点) ○外国語[英語・中国語・古典中国語(漢文)から1科目選択](60分・100点)※2 ○面接試問
	社会人入試	○小論文(60分・100点) ○面接試問
	外国人留学生入試	○基礎知識・小論文(60分・100点) ○面接試問

学費

博士前期課程・修士課程				
	入学手続時に必要な金額	入学後※ 11月27日までに必要な金額	入学年度に必要な金額の合計	備 考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学出身者は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	
施設費	50,000円	50,000円	100,000円	本学出身者は半額
その他	11,430円	—	11,430円	本学出身者は6,430円
合 計	571,430円	310,000円	881,430円	

※納入期限が土日祝等金融機関の休業日にあたる場合は、その翌営業日が納入期限となります。
※1年次の学納金は、入学時と入学後11月の2回に分けて納入。
※2年次は授業料および施設費と、松苓会(同窓会)終身会費15,000円を徴収します。

博士後期課程				
	入学手続時に必要な金額	入学後※ 11月27日までに必要な金額	入学年度に必要な金額の合計	備 考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学前期課程修了者は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	奨学生選抜入試における奨学金合格者は授業料全額免除
施設費	35,000円	35,000円	70,000円	本学前期課程修了者は30,000円
その他	14,620円	—	14,620円	本学前期課程修了者は9,620円
合 計	559,620円	295,000円	854,620円	

※納入期限が土日祝等金融機関の休業日にあたる場合は、その翌営業日が納入期限となります。
※1年次の学納金は、入学時と入学後11月の2回に分けて納入。
※2年次以降は授業料および施設費と、3年次に松苓会(同窓会)終身会費15,000円を徴収します。

2026年度 入試結果

課 程	試験種別	専 攻	秋季試験		春季試験		合 計	
			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
博士前期課程・修士課程	一般入試	国文学専攻	5	5	3	3	8	8
		中国学専攻	1	0	1	1	2	1
		歴史文化学専攻	1	1	0	0	1	1
	社会人入試	国文学専攻	1	1	1	0	2	1
		中国学専攻	0	0	1	1	1	1
		歴史文化学専攻	0	0	0	0	0	0
	外国人留学生入試	国文学専攻	7	3	5	2	12	5
		中国学専攻	4	2	3	2	7	4
		歴史文化学専攻	0	0	1	0	1	0
	合 計	国文学専攻	13	9	9	5	22	14
		中国学専攻	5	2	5	4	10	6
		歴史文化学専攻	1	1	1	0	2	1
博士後期課程	奨学生選抜	国文学専攻	-	-	-	-	-	-
		中国学専攻	2	2	0	0	2	2
	一般入試 ※国文学専攻は奨学生選抜付	国文学専攻	2	2	1	1	3	3
		中国学専攻	1	1	1	1	2	2
	外国人留学生入試	国文学専攻	0	0	1	1	1	1
		中国学専攻	0	0	0	0	0	0
	合 計	国文学専攻	2	2	2	2	4	4
		中国学専攻	3	3	1	1	4	4

(注) 奨学生選抜入試では、奨学金合格者のほか、通常合格枠もあります。

アドミッションポリシー

博士前期課程・修士課程

学士課程等において身につけた、文学及び文学研究に関する基礎知識や研究方法等の知見に基づく十分な基礎学力を修得していることを前提として、次のような志向・資質を持った人材を受け入れます。

《国文学専攻》 ①日本文学、日本語学、日本文化学等の各分野に関する専門的な知識と研究方法を修得する意欲のある者。 ②研究を通じて修得した深い学識によって、研究・教育など高度な専門性が必要な分野での社会貢献を目指す者。 ③社会人としての経験があり、その知見を生かして、自己の問題意識に基づく文学研究を更に深める意欲のある者。	《中国学専攻》 ①中国学、日本漢学、中国文化等の各分野に関する専門的な知識と研究方法を修得する意欲のある者。 ②研究を通じて修得した深い学識によって、研究・教育など高度な専門性が必要な分野での社会貢献を目指す者。 ③社会人としての経験があり、その知見を生かして、自己の問題意識に基づく文学研究を更に深める意欲のある者。	《歴史文化学専攻》 ①日本史、東洋史、西洋史、日本文化学等の各分野に関する専門的な知識と研究方法を修得する意欲のある者。 ②研究を通じて修得した深い学識によって、研究・教育など高度な専門性が必要な分野での社会貢献を目指す者。 ③社会人としての経験があり、その知見を生かして、自己の問題意識に基づく歴史文化研究を更に深める意欲のある者。
--	--	--

博士後期課程

修士課程等において身につけた、文学及び文学研究における専攻分野に関する研究実績を有していることを前提として、次のような志向・資質を持った人材を受け入れます。

《国文学専攻》 ①日本文学、日本語学、日本文化学等の各専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に従事することを目指す者。 ②課程博士号を取得し、課程修了後は研究職を目指す者。	《中国学専攻》 ①中国学、日本漢学、中国文化等の各専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に従事することを目指す者。 ②課程博士号を取得し、課程修了後は研究職を目指す者。
--	--